

小栗上野介情報73

ホームページHttp://tozenji.cside.com/ Eメール: tozenji@clock.ocn.ne.jp



2019(平成31)年1月
発行:東善寺 住職 村上泰賢
群馬県高崎市倉渚町権田169
〒370-3401
Tel・fax:027-378-2230
〒振替0120-1-406206東善寺

「罪なくして斬らる」 非命150年 *「明治150年」ではありません

高崎小栗上野介企画展

成功裡に終わる

◇11月2日～7日／シティギャラリー ◇主催 小栗上野介顕彰会



▲正面で「顕彰慰霊碑」のタペストリーが参観者を迎える
展 示

◇非命150年 政府が補助金を出して進める「明治150年」＝明治維新バンザイの冠イベントではなく、小栗主従はその明治政府軍に殺害されて「非命150年」、その後の政府が無視抹殺してきた小栗上野介の業績を再認識してほしいと、政府筋の補助金はナシで開催。

◇横須賀製鉄所は日本産業革命の地 小栗公が建設を推進した横須賀製鉄所から日本中に近代産業の種子が広がった。群馬県では世界遺産の「富岡製糸場は横須賀の妹」であり、「中島飛行機は弟」といえる。生野銀山(兵庫)は、明治初年に横須賀から蒸気機関や採掘機械を導入してモデル鉱山となった。

◇中島飛行機の関連を展示したのは今回はじめて。多くの方が立ち止まってパネルや説明をじっと読む姿が見られた。中島飛行機財閥は戦後解体され、富士重工→スバル自動車、プリンス自動車→合併から「技術の日産」と呼ばれるようになった日産、電動工具のマキタ、ほかいくつもの会社に分かれたが、いずれも横須賀造船所→中島飛行機→の技術がしっかり受け継がれている。

◇呉も弟 展示では触れなかったが、呉(広島県明治22年～)の海軍工廠も横須賀の弟と言ってよい。11月10日のヴェルニー小栗祭(横須賀市)で隣に座った呉市の東京事務所長は、「呉も横須賀の弟です」とうれしい自己紹介をしてくれた。

11月4日(日)午後1時～シティギャラリー・コアホールで記念演奏会・式典・鼎談を行なった。

鼎談

・手島仁氏 前橋市文化スポーツ観光部参事・前橋学センター長／・小栗さくらさん 博物館学芸員資格を持つ歴史タレント／・村上泰賢 コーディネーター・小栗顕彰会理事・東善寺住職／ 飛び入りで上毛新聞江原昌子記者に登壇してもらう

◇昭和4年の小学生副読本『郷土読本』を手島氏が紹介し、小栗さくらさんが朗読。戦前にほとんどの県民は小栗上野介を高山彦九郎・新田義貞とともに「上州の三偉人」として業績を認識していたことを指摘。かえって戦後のほうが教科書にも副読本にも載らず、知られなくなったと語る。

◇小栗の名を芸名にしたのは少しでも関心を持ってくれる人が増えてほしかったから、と語った小栗さくらさん。最近制作のCD小栗の歌「礎」の一節を会場に流すと全国からかけつけたさくらファンは大喜び。「上毛かるた」に小栗上野介が載せられなかった話に及ぶと「小栗かるたを作っては?」と提案した。

◇ちょうど上毛新聞連載中の「上州と小栗の幕末維新」を担当している江原昌子記者が取材していたので、壇上に招いて飛び入り参加で連載の意図を語ってもらった。

◇政府がいう「明治150年」を機に、かえって従来の薩長史観の見直しが盛んになっている。この鼎談も小栗公の業績確認を通して見直しに貢献出来たのではなかろうか。

▶上毛新聞で「上州と小栗の幕末維新」を担当している江原記者にも飛び入り参加で語ってもらった



▶高崎北高校吹奏楽部が「小栗のまなざし」「さくらの歌」などを演奏





◆ 中庸の大切を説く—

ゆうざのき

人気の展示品 「宥座之器」

・「現代の名工」針生清司氏（館林市）が住職の講演を聴いて「父は横須賀海軍工廠の工作学校で学んだ板金を自分に伝えてくれたが、それは小栗公の日本近代化構想からつながる技術だった！」と感激。中国古典を研究して復元した「宥座之器」を「小栗公のそばに置いてほしい」と東善寺に

以前に寄進したものを。

・横須賀造船所から全国にこういったさまざまな技術が広まって、今も日本の産業を支えている、その一例として展示した。

・孔子がこの「宥座之器」で、物事は「中庸」が大切、と説いた。

・20億円もの年俸をもらいながら半分隠して公表していて逮捕された日産のカルロス・ゴーン会長は、傾いていた日産自動車を立て直したとはいえ、2万人もの社員を退職させた



▲カラッポの器は傾いている



▲ほどよく水が入ると真っ直ぐ立ち



▲水をいっぱいになると、傾きこぼれて、全て失う

あげくにしたことだから、この器で東洋の「中庸」や「謙譲」の精神を体得していれば己の欲を抑え謙虚でいられたらうに、地位や権力におごって取れるだけ取りまくるとは一。

・西洋にはアジアの「中庸」や「謙譲」に相当する精神文化はないのだろうか。

◆ 上毛新聞で連載10回 10月30日～11月10日

「上州と小栗の幕末維新」

上毛新聞は連載で小栗上野介と上州の幕末維新を取り上げた。

トップ「製糸場の礎海から」で第1面に横須賀製鉄所建設の先見性が富岡製糸場につながる近代化の軌跡を取り上げてスタート

第1回「人と産業 横須賀経由」富岡製糸場の成功は横須賀にある

第2回「費用捻出へ 養蚕着眼」遣米使節の見聞体験が基礎にある

第3回「造船へ 大量生産震源」中小坂鉄山は鉄の国造りの第1歩

第4回「夜明け前 命多く散る」水戸天狗党を迎え撃った高崎藩

第5回「一族で権田村に移住」武士の進言が通らず権田村に隠棲

第6回「百数十人で2000人撃退」ぶち壊し一揆を家臣農民で撃退

第7回「朝敵とされ非業の死」無実の朝敵とされ死後も逆賊扱い

第8回「強行と離脱 明暗の生」天野八郎は彰義隊で西軍と戦う

第9回「国を思って行動 共通」中島知久平は横須賀の技術で飛行

機会社を興す

第10回「偉材の志学び 後世に」屋敷跡の観音山を慰霊の公園に

◆上州にまつわる幕末維新の動きを多彩に取り上げた好企画であり、偶然小栗上野介企画展と連載が重なったので、参観者の関心が高く、熱心に解説パネルを読む姿が毎日見られた。

◆ 西郷どんに使い捨てられた「赤報隊」 謀略体質の西軍・東山道軍



さがらそうぞう
▲相楽総三らの慰霊碑 下諏訪

・小栗上野介主従を権田村で殺害する前に、東山道軍は信州下諏訪で赤報隊8名を殺害してきている。西郷隆盛の指示で東山道軍の先触れ隊として「年貢半減令」を唱えることを許され、沿道の農民に新政府への協力を呼び掛けて軽井沢付近まで進んだところを呼戻され、「ニセ官軍」の罪名で三月三日に殺害された。

・頭領の相良総三は前年に、幕府との戦争の名目を得たい西郷の指示で江戸の薩摩屋敷を根城に浪人を集めた「薩摩強盗」で、強盗、放火、暴力を繰り返し、江戸町民を震え上がらせて挑発。慶応三年十二月二十五日薩摩屋敷が幕府に焼き討ちされると相良は船で京都に逃れ、次に赤報隊を組織して新政府軍の先触れをしていたもの。

・相楽を殺害することで、西郷らは一石二鳥で「薩摩強盗」と実行不可能となった「年貢半減令」を闇に葬ったことになる。

・「小栗はなぜ殺されたのですか？」とよく訊かれる。「殺した西軍の謀略体質に問題があった」「人を見る目もなかった」という説明も加えてよいだろう。NHKでは描けない西郷や西軍の裏の顔。

◆ ヴェルニー小栗祭

11月10日（土）横須賀市ヴェルニー公園でヴェルニー小栗祭式典が開催され、ローラン・ピック駐日フランス大使はじめ内外の内外からたくさんの参列者があって、にぎやかに行われた。小栗上野介顕彰会は式典参列のあと猿島へ渡って、レンガの要塞跡を見学した。



◆ 講演とシンポジウム



午後、横須賀市文化会館で住職は「小栗上野介と横須賀製鉄所」と題して講演。横須賀から富岡製糸場や中島飛行機（群馬）や生野銀山（兵庫）の近代化につながる。横須賀はたんなる軍港や軍艦製造所ではなく総合工場で、本当の「日本産業革命の地」と言えることを語りました。

◆ 葛村聡子朗読コンサート 11月16日 大丸心齋橋劇場（大阪市）で遠藤徹二作「怒涛のごとく」を朗読講演。「関西の地でも昨年今年と公演して…小栗上野介の認識が広がる機会となった」と、報告がありました。公演に先立って葛村さんは「自分の言葉で語りたい」と9月に夫妻で小栗公の墓参や史跡探訪をし、台本の背景にある小栗公の生涯と業績を深く知り、公演に臨んだもの。

◇ 幕末の歴史・小栗上野介ファンの方へ

会員になってください——東善寺「たつなみ会」



倉渕町の小栗上野介顕彰会ではさまざまな顕彰活動をしています。倉渕地区の人口減で顕彰会員が減っております。東善寺の「たつなみ会」会員には顕彰会機関誌『たつなみ』を発行のつど顕彰会から購入してお送りし、誌代が顕彰会の活動資金に役立っています。また東善寺発行の「小栗上野介情報」や「東善寺だより」などで、小栗上野介・幕末関連の最新情報をお送ります。

□お申し込みは：東善寺へメールまたは電話、ハガキで

□たつなみ会会費 年1800円

□ご送金は：郵便振替「東京00120-1-406206東善寺」へ